奈良市消防団だより
～なでしこ新聞～



発行
奈良市消防団
〒630-8145
奈良市八条五丁目404-1
奈良市消防局
総務課内
☎ 0742-35-1199
編集人
奈良市消防団
広報指導分団
増村　映里子

第26回全国女性消防操法大会



祝！

８位　優良賞



令和７年10月28日、神奈川県横浜市の横浜赤レンガ倉庫イベント広場において、各都道府県代表の44チームが参加し『第26回全国女性消防操法大会』が開催されました。
約半年間、週２回、夜の訓練を中心に本番近くには早朝訓練も行い、各方面隊男性団員の方々にも水利の確保やホース巻きなど様々な後方支援という大きな協力を得ました。また、選手以外の広報指導分団員も仕事や家庭、育児など様々な調整を行い、後方支援として共に訓練に励んだ結果が実を結び、素晴らしい結果を残すことができました。

出場選手へのインタビュー

【大会に出場したとき、どんな気持ちでしたか】

＊緊張さえも楽しみたい気持ちで、本番を迎えました。やるべきことはやってきたので、後は自信をもって全員でベストを尽くすのみと強い気持ちで臨みました。　（３番員　河合京子）

＊大会当日は晴天で、本番も緊張する事なく、楽しくワクワクしていました。指揮者の「操作、始め！」の合図で操法が始まり、消防団や消防局、応援に来てくださった皆さんの声援がしっかり届きました。　（２番員　堀口恵美子）

【８位入賞が決定したとき、どんな気持ちでしたか】

＊もちろん目標は優勝でしたが、入賞という形で残すことができたことの達成感はとても大きく本当に嬉しくて心が震えました。今まで携わって下さった方々、ひとりひとりへ感謝したい気持ちでした。悔しかった、結果を出せなかった６年前のモヤモヤがようやく晴れた瞬間で、笑顔で奈良に帰れることに正直なところ安堵していました。日々支えて下さった皆様へ本当に感謝の気持ちでいっぱいです。　（３番員　河合京子）

＊入賞が決まった時は、「胸を張って奈良に帰れる！」ということが嬉しかったです。たくさんの方々に支えられてあの舞台に立たせていただいたので、どうにかそれを結果として持ち帰りたかったため、どこかホッとしたとした気持ちもありました。入賞できたのは、選手だけの力ではなく、ずっとバックアップしてくださった多くの方々のおかげです。団内外問わず協力してくださった全ての方を含む「奈良市消防団」として獲得できた賞だと思っています。（４番員　新居恵）

【訓練から大会出場の中で、一番緊張したことは何ですか】

＊ポンプ操法の９名に選ばれてから、最後の訓練が終わるまで心身共に休まる事がなく、緊張の日々でした。（２番員　堀口恵美子）

＊やっぱり大会当日の本番です。≪自分の号令から始まる！≫みんなが戦闘態勢に入ってくれている中で、絶対にミスはできないと思う気持ちが強かったです。ただ、しんどい緊張感ではなく、大きな声援が気持ちの良い緊張感に変えてもらえたことは今でも鮮明に覚えています。　（指揮者　石田裕子）

【一番楽しかったことは何ですか】

＊休憩中のもぐもぐタイムです。ポン操に関わってくださっている方々と、ちょっとの時間ですが一緒に何気ない会話ができるあの空間が好きでした。よしあと少し頑張ろうと思えました。楽しかったです。　（１番員　大井知子）

＊羽曳野市さんとの合同練習はとても楽しかったです。同じ関西チームとして、仲間意識をもって情報交換もできました。大会当日も応援し合えて嬉しかったです！訓練始め式の時の決意表明に、みんなが同意してくれて、６年前を思い出した、気が引き締まったと言ってくれたこと、とても嬉しかったです。同じ気持ちで横浜に向かっていくんだ！と、心が燃えるのを感じました。このメンバーでポン操できたこと、本当に嬉しかったです。訓練前のタッチアンドコールは本当に良かったです。緊張感はありながらも、みんなの顔を見て、笑顔で訓練を始められる、素敵な時間だったと思います。（４番員　新居恵）

【最後に、伝えたいことはありますか】

＊今思うと、日々の訓練で団の皆さんや職員さんと共に過ごした時間が楽し過ぎた分、ロス感がありすぎました。自分達だけでは決して成し遂げられることではなかったので、支えてくださった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。最高の経験をさせていただき、本当にありがとうございました。　（指揮者　石田裕子）

